

三三六三

農商務省
圖書
第 二 七 〇 號
共 二 十 冊

和書門
八四二四
類號函架冊
七二

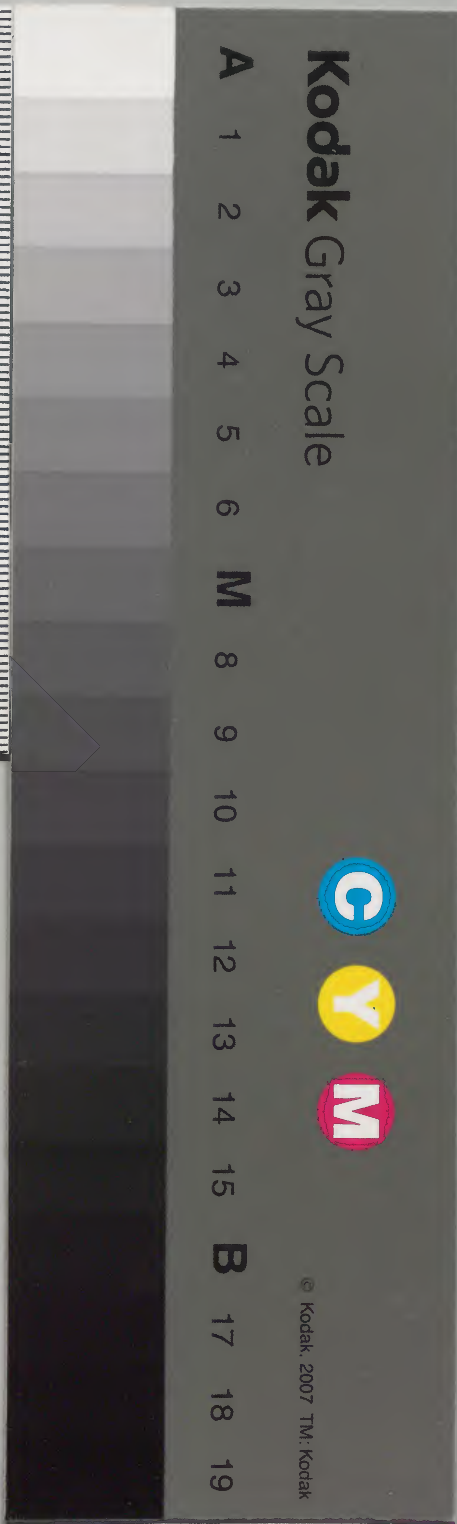
內閣文庫
和書
八四二四
類號函架冊
七二
九六函架冊

內閣文庫	
番號	和 8424
冊數	72 (62)
函號	196 190

本草圖譜

果部

六十二



本草圖譜

本草圖譜卷之六十六目錄

明治十二年

果部 山果類

枇杷	楊梅	櫻桃	一種	胡桃	一種
かき	やまびい	とうもろこし	かき	くるみ	くるみ
一	三	五	八	十	十
種	種	種	種	種	種
山果類	山果類	山果類	山果類	山果類	山果類
一種	一種	一種	一種	一種	一種
二	四	七	九	九	九

本草圖譜

本草圖譜 卷之六十六 目錄

一種

てうしん

榛

しんご

十三

一種

つのも

廿

櫛子

かのみ

十五

苦楸

つわが

十六

一種

あふあか

鉤栗

あふが

十七

一種

いあか

十六

椽實

つらみ

解實

あふのみ

廿

枹集解

こあふ

廿一

一種

一種

廿二

一種

一種

まらふ

廿三

一種

しんご

一種

廿四

大葉栳各款

かみ

本草綱目 卷之六十六 目錄 二 洋園隱菴

Table with 10 vertical columns and 1 horizontal line, currently empty.

本草圖譜卷之六十六

東都 岩崎常正著
男 岩崎信正
門人 小山廣孝 校

果部 山果類

枇^ひ杷^ぱ

公^{こう}ハ^は 鈔^{しょう}和名

蠟^{ろう}兒^に 典籍便覽

負^か雪^{ゆき} 名物方言 花の名

人形多栽の葉ハ粟小似て動く背小黄色多冬凋まひ冬月穂を介て五瓣黄
白色の花を開き夏月実熟ハ黄色小正四指の大きさ味ハ甘中核あり
黒褐色小て金光あり一枚のものを二三枚のものを凡て核小小て肉多きもの
上品ハ以核を和の方書小巴実と名く本經逢原小其核大寒而伐肝脾と
云花曆百詠小定風珠といふもの核を以て此のあひ人形のおり小造る食料
小武列岩槻より出る物核小く肉多

本草圖譜 卷之六十六 一 澤田良雅



枇杷



一種

薩州小産物
物実大なり樹の
知味甚甘美
上宮之時珍の説
小大者如雞子
とりふれあり



楊梅

かまゆり 楊家果 異名 楊氏子
籠晴 火實 醜 阿比ユチエスボム 蘭

暖地小産以豆列赤澤八幡野又上総房列小出の樹高さ
一二丈嫩芽の葉小ハ鋸齒ありて櫛の葉小似て小く老樹葉小ハ
鋸齒ありて瑞香葉小似て狭く冬凋まらば春即葉の間小黄白色
の小花を生以別の処小実を生以形覆盆子小似て肌細く指
頭の大きなりて正四夏月熟し紫紅色味ひ酸し甘し炊豆小反
出ると云楊梅皮ハかまゆりの皮ん俗小ゆりかまゆりといふと
云漆家にて褐色を染むる小用也

楊梅



一種 杏あん

水精楊梅すいせいようばい

五雜俎

泉列いんれい根及い河
列れい小実白色せう
色しき又また豆列まめれい
のめり云い甚た稀ら
く釋しやく名な小時珍せうしじん
此錄こ色しき引ひ白楊梅はくようばい
為な聖僧せいそうと云い此こ
杏あん



櫻桃おうとう

西 <small>さい</small> 長 <small>ちやう</small> ふ <small>ふ</small> む <small>む</small> め	中 <small>ちゆう</small> 長 <small>ちやう</small> ふ <small>ふ</small> 京	中 <small>ちゆう</small> 長 <small>ちやう</small> ふ <small>ふ</small> 和 <small>わ</small>
加 <small>か</small> め <small>め</small> 日 <small>に</small> こ <small>こ</small> く <small>く</small> の <small>の</small> 之 <small>之</small>	本 <small>ほん</small> 草 <small>そう</small> 朱 <small>しゆ</small> 菜 <small>さい</small> 類 <small>るい</small>	英 <small>えい</small> 桃 <small>とう</small> 譜 <small>ぷ</small>
朱 <small>しゆ</small> 英 <small>えい</small>	秘 <small>ひ</small> 傳 <small>でん</small> 花 <small>か</small> 鏡 <small>きやう</small>	烏 <small>う</small> 龜 <small>きん</small> 芽 <small>げ</small> 鑿 <small>さく</small>
麥 <small>ま</small> 英 <small>えい</small>	上 <small>じやう</small> 同	麥 <small>ま</small> 桃 <small>とう</small>
	本 <small>ほん</small> 草 <small>そう</small> 和 <small>わ</small> 名 <small>な</small>	引 <small>ひ</small> 兼 <small>けん</small> 名 <small>な</small> 花 <small>か</small>
		本 <small>ほん</small> 草 <small>そう</small> 和 <small>わ</small> 名 <small>な</small>
		引 <small>ひ</small> 教 <small>きやう</small> 葉 <small>えつ</small> 性 <small>せい</small>

凡おほ唐たう山さん中ちゆう八はち種しゆ類るい多おほ和わ産さんハ
小せう先せんて花か色しき開ひらく五ご瓣はん淡たん紅かう色しき形かたち桃とう花か小せう似にて小せう蕾らい三四
一いつ處ところ不ふ簇さく以もつ從したがて葉えつ色しき生なじ櫻おうの葉えつ小せう似にて小せう厚こうく微ま
毛けあり五ご六ろく月げつ実み熟じやくじ郁い季き小せう似にて粘ねり紅かう色しき味あじひ酸さん中ちゆう小せう
さ核かくあり又また郁い季き小せう似にて粘ねり



櫻桃



山櫻桃

あかむぎさくら

とうろさくら 江戸

棣子 急乾篇

野州日光山武州上野信州木曾山中及ひ上総房州等の高
山の深き小自生に樹一二丈葉ハ櫻桃の如く細鋸齒あり
樹皮白かんさくらの如く花赤彼岸小開く五瓣水紅色大さ
二三分花の莖長く蒂の形丁香小似たり又花つゝ実熟
して紅紫色大さ南燭の如く味ハ酸甘一房列の釐ハ花
大なり五分許りありて紅色美し櫻桃ハ人家小有て深山小
なく山櫻桃ハ人家小なく深山小自生に多し山さくら花を結
し今多し花を結し今多し花を結し今多し花を結し今多し
山さくらより千瓣の物を生し今多し花を結し今多し花を結
るるる一以類數百種中にて遠葉をへりて載り



一種

やま さくら



大和芳野谷嶺あり深山のハ
句々葉ハ赤不似て濁く花ハ三月
開く草薺水紅色大さ梅花の如
く其実櫻桃小似て円く莖長く
塩蔵し食む此ハ酒の酔を解け



本草綱目 卷之六 木部 杏

銀杏 ぎんぎょう

いちかろう 木の名

ぎんあん 実の名即ち銀杏の唐音なり

仁杏 汝南圃史

白杏 事物異名以上実名

白眼 同上

靈眼 同上

平仲木 正字通

火橐木 通雅以上樹名

公孫樹 汝南圃史



本草綱目 卷之六 木部 杏

本草綱目 卷之六十一 九

人家多あり樹高く葉へ数丈小至る葉の形鴨脚の如く
春月一寸許りの穂多生し淡綠色の小花を横簇に秋月実
熟に大き杏の如く黄色脂液多く肉中小核あり白色小
して二稜或ハ三稜あり枝中小仁あり白色く熟る時ハ綠
色小變り果とあす一を樹堆雄あり雄ありその実色
微り雌多その実色微小老樹小ハ枝の本より乳の如き物
を生じ長き物丈余小至る土中小至るハ樹とあす一

胡桃

てうせんふまエスハ 蝦夷名 子シロ上 タクチユス 鮮朝
スキスイユグランズ 蟹 核果 事物異名 蝦蟆 瑯琊代醉編仁の名
阿乞朝囉 梵 播囉師木 同上

葉用小ハ朝鮮 くるみ 一名麝 くるみ と云を用ひて樹高
大葉ハ山胡桃小似て深き鋸齒あり又漆の葉小似て鋸齒
あり七葉九葉一莖小對生枝の櫛小夏月花あり栗の花
小似て下葉以後実を綴小桃小似て綠色硬く中小核あり
山胡桃より枝薄く皺少あり微炮外て殼を去るときハ碎
き中身ハ仁小缺刻ありて牡丹花の如く味ハ尋常の如
くと同し

本草綱目 卷之六十一 十一 雜園問

本草綱目 卷之六 胡桃

山胡桃 解集 今々々

人家多く栽るる所の葉小似て潤く大小微し黄褐色の
 毛あり枝硬く皺あつて一夫あり碎け難し一種のみ今々々
 と云あり越後の産あり枝節は開て鳥の口を開る如く故
 小名は

一種 白めらるる ぬらるる 柳

枝薄くて皺あつて中の仁採り易し山胡桃の中より仁
 全く採れ馬鞍の形の如くある故上品とあり

胡桃



本草綱目 卷之六 胡桃



山胡桃



山胡桃

本草綱目 卷之六十六 木部 榛

榛るえ

しーばみ和名

榛栗雅通

任城果名物

女贄上同

庭際多く栽つの小木のて叢生さうせいの葉ハ榆いに似て潤うるく大く周圍しゅうゐの大小の鋸のこぎり齒はありて虫の食くむるに似たり肌は紋理もんり深く嫩な葉はの如く紫斑むらあり冬月枝の節ふしに小花を生はじり穂ほを介まして黄色きいろの葉の如く春月実を結むすんで殼かあり殼中の実み柯樹かじゆ法の實みに似て肉にくく炙い食くハ香美かみあり

一種

つのもーりみか

あかこーりみ

奥州松前邊おくしゅうまつまへ其餘北國ほくこくにもあり葉ハ榆いに似て微こく毛けあり樹きの犬余いぬあま小及こおよし花ハ前條まへじょうと同おなく唯ただ實みの殼か長ながく角かくの如く一房いちぼう三五顆さんごかくを結むすぶ其実そのみ円まくち形がたあり味あじハ前條まへじょうと同おなく



本草綱目

卷之六十六

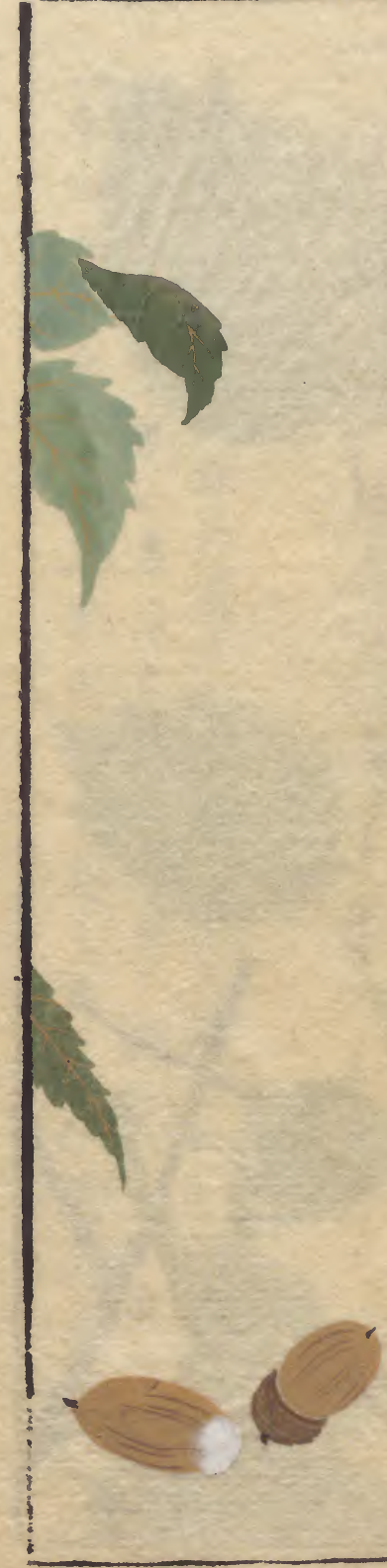
木部 榛

楸子

かしのこ せうごめ 唯 かしのき

圓楸 小物理

諸國山野並小庭際あり栽の種類甚多く楸ハ白色小微
赤あり若楸より葉あり葉ハ茶色似て肥大不鋭なり
硬く鋸齒粗く裏淡緑色初夏葉の間小花あり穂を成し
て栗花の如く長さ二寸許黄白色別ハ小実色紺ハ柯の突
小似て肥大小初ハ青く熟くハ黄褐色 実の本小葉少く
形碗の如く実の味ひ淡く



苦楮 鮮 づが

此條ハあわしの葉を云上岳あり葉ハあわしの葉より潤く
熟く堅くや鋸齒あり四時潤く初夏葉の間小花を開く栗
花小似て細く短く実ハ蓮実の大きさや本小葉あり碗の如く
横小筋あり食用は此林赤色なり堅く鉄炮の臺車の齒並
小諸器小作る

一種 ありあか 龍栢芽 救荒本草

あわしの内より葉小鋸齒ありて 櫟葉小似たる物あり其
外小葉長葉其類甚多



苦楮 づが

本草綱目 卷之六十一 木部 栗 一

一種

あふあか



鉤栗

あふあか

麩

楮集楮子

あふあかハ林とありて白色 苦楮深より柔く葉柯樹味小
 似て鋸齒深きあり浅きあり葉小狭き濶きあり葉の背白色
 又ハ黄色 ありとの淡綠色の物あり春月葉を生ける小
 早晩あり 嫩葉白色の物紫色の物あり実より変はる
 四月花あり栗の花小似て穂細く短く醒気
 あり実ハ苦楮と同く其蒂り又同一味い苦く浅く

一種

いちい加

尾列勢列 枝小あり葉細葉のわく小似て鋸齒深く葉並小葉
 小黃褐毛あり実ハか小似て附く

本草綱目 卷之六十一 木部 栗 一

本草綱目 卷之六 木部 十八 榎園



いぢいぢ



鉤栗

あぶら

本草綱目 卷之六 木部 十七 榎園

本草綱目 卷之六十一 樹木 十一

橡實



つるもみ 和名 鈔本草和名

どんぐり 江 どんぐり 同上

おだんぐり 信列以上実名 ろねき

わつき 江 とち 同名 まき 中備

うつき 州 志さい 州



うのぐら 撰列以上本名

橡栗 雅通

標 上同

黄栗 物理小蔵以上実の名

様 雅通

招 上同

赤糯米 証類本草以上樹名



エイケボーム 和蘭

本草綱目 卷之六十一 樹木 十一

山野小多し高さ二尺許り葉ハ栗小似て頗る短く硬く鋸齒あり樹
 小雌雄あり雄多し夏月葉の間小穂を下垂し栗の花小似て癢
 たり雌ハ枝の間小実を緋く又栗の子小似て細長一本小穂あり此
 色よめのこきとよこの樹皮を和方書小北骨皮門皮國皮云
 う此樹の炭を池田炭と云又薪あり

榭實

あとのこ あら あら まき
 以下 榭 榭

山野小多し裁て炭薪と云るなりそわき等類
 大同小異あり葉ハわき小似て微く薄く小く秋の末小至
 り紅黄色小あり落葉ハ初夏葉の間小花を開く栗の花
 小似て細く短く從て実を結ぶ橡実小似たり蒂りきり同
 実味ひ苦く蒸し根上小栗の穂の如きものを生ひ突小非
 に出の巢こ白色の長さ虫ありこの巢をあらう又あらう
 のあらうとあり

本草綱目 卷之六 木部 榭實

本草綱目 卷之六 木部 榭實

本草綱目
卷之六
木部
栲樹
栲實

栲實

あいのこ



抱集 あいのこ ころろろろ

青岡樹 救荒本草

敷落樹 内菴落集解

字落葉 鎮江府志

葉本楸く救麩くや丸く粗く
鋸齒あり秋月葉紅色小句て
落葉は初夏花あり形前條
と同実も又同一味は苦く渋



本草綱目
卷之六
木部
栲樹
栲實

本草綱目
卷之六
木部
七十一
秋分
十月

一種

樹前條と同
葉ハ前條より微
大ニ突又同



一種

葉前條より
大ニ突



本草綱目
卷之六
木部
七十一
秋分
十月



一種

葉前條より
小ありまの



本草綱目

卷之六十六

十口三葉園用

一種

とくそ

葉のありより大なり
狭く長く秋月紅色小
なり落葉は此実本條
小云櫛 実く大く四く
一七歳ありま 櫛子の
如し



本草綱目
卷之六十六
十一
三

